

さぬき水田営農だより

発行:香川県水田農業振興協議会 問合せ先:香川県農業協同組合農産課 TEL:087-818-4104
香川県農政水産部農業生産流通課 TEL:087-832-3418

米穀の生産・流通及び消費の動きについて

1. 米の消費量の動きについて

16年度の全世帯平均消費量は、1人当たり4,913g/月で毎年1%程度の減少となっています。消費者世帯の減少率(0.7%)より生産世帯の減少率(2%)が高くなっているのが特徴です。

2. 米の生産に関する動きについて

市場評価の高い特定品種への作付けの集中が進んでいます。

17年産の上位5品種の作付けシェア(見込み)は、1位:コシヒカリ(38.0%)、2位:ひとめぼれ(10.5%)、3位:ヒノヒカリ(10.2%)、4位:あきたこまち(8.9%)、5位:キヌヒカリ(3.5%)となっています。

3. 米の出荷・販売の動きについて

16年産米の生産者から農協等へのうるち米出荷(販売委託)数量は、508万トンで、うち農協等が全国出荷団体へ委託せずに独自に販売する数量は、53~109万トンと見込まれ年々増加しています。逆に、生産者から農協等以外への販売数量は若干減少しています。

4. 価格の動きについて

図1 コメ価格センター入札の指標価格推移(全産地品種銘柄平均)

[単位:円/60kg]



5. 平成17/18年の需給見通しについて

平成17/18年(17/7~18/6)の需要見通しは、854万トンとなっています。

表1 平成17/18年の主食用等の需給見通しについて

[単位:万トン]

		全体需給	
			うち政府米
平成17年6月末在庫	A	256	84
平成17年産米生産量	B	851	40
供給量計	C=A+B	1,107	124
需要量	D	854	40
平成18年6月末在庫量	E=C-D	253	84

県産米の品質向上に取り組みましょう

登熟期の水管理

用水不足が懸念されている地域もありますが、これからの水管理は、出穂期前後は湛水、それ以降は間断灌水を行いましょう。なお、登熟期間中の水分不足は基部未熟の原因となり、また、早期落水は胴割れ米の発生につながりますので、落水はコンバイン収穫に支障のない範囲でできるだけ遅くしまししょう。(落水は収穫の5~7日前が適当です。)

病虫害防除

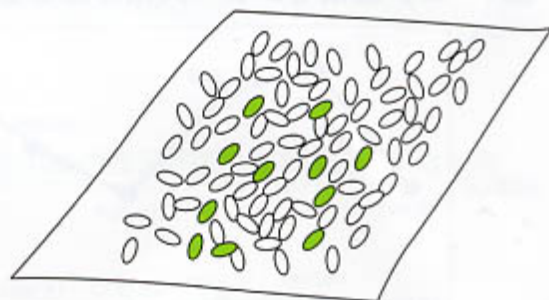
本年はカメムシの発生量が「やや多」との予報が出ています。カメムシの発生が多いほ場では、^{ほんてん}斑点米による品質低下を防ぐため、出穂後、乳熟期前までに必ず防除をしまししょう。また、ほ場周辺からのカメムシの飛込みを防ぐため、畦畔の草刈りは、出穂後には行わないようにしまししょう。

籾黄変率に基づいた収穫適期の診断

収穫の適期の判定



白い紙の上に広げて見る



・最も背の高い穂で、15%前後の淡緑色もみが見られる時が適期(しいなは除く)

出穂後日数の目安:

★ヒノヒカリ.....40~42日

★コシヒカリ・はえぬき...33~35日

(登熟期の気温により変動します)

用水不足が懸念されていますので、
地域の水事情に応じた適切な水管理をお願いします。

本年はウンカ類の発生が多くなっています。発生が多い場合は必ず防除をしまししょう。

香川県産小麦「さぬきの夢2000」と はだか麦「イチバンボシ」がまだまだ足りません

さぬきの夢 2000

さぬきうどん用品種としてのブランドが確立し、製麺適性試験でも評価が高く、製麺業者からの要望が強いことから、一層の生産量の拡大と品質の向上・安定が求められています。

イチバンボシ

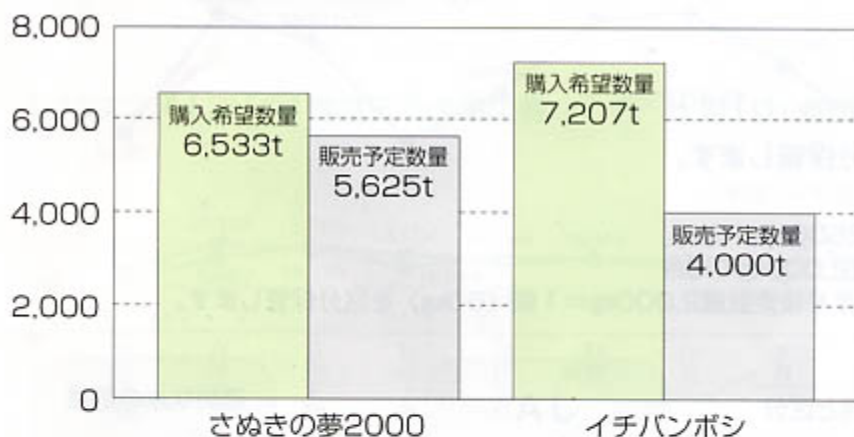
押し麦・味噌・麦茶などに加工され、好評を得ています。平成15、16年と2年続いた作柄不良により、実需者側からは、生産量の拡大と品質の向上・安定が強く求められています。

平成18年産麦の作付目標

(単位：ha)

	17年産 (実績)	18年産 (実績)
さぬきの夢2000	1,327  223ha増 	1,550
イチバンボシ	1,033  67ha増 	1,100
合計	2,360  290ha増 	2,650

平成18年産麦の需給状況



平成18年産麦については、昨年より290ha増やした2,650haに作付拡大し、「さぬきの夢2000」で5,625t、「イチバンボシ」で4,000tの販売を予定していますが、それでも実需者からの購入希望数量が販売予定数量を上回っている状況です。

販売予定数量に見合う生産量を確保するとともに、品質のよい麦づくりに努めましょう。

「麦はよくできる土地だけど、10～5月に遊休地となっている」田や畑はありませんか？



農地を遊ばせておくのはもったいない！ 麦を作付けましょう

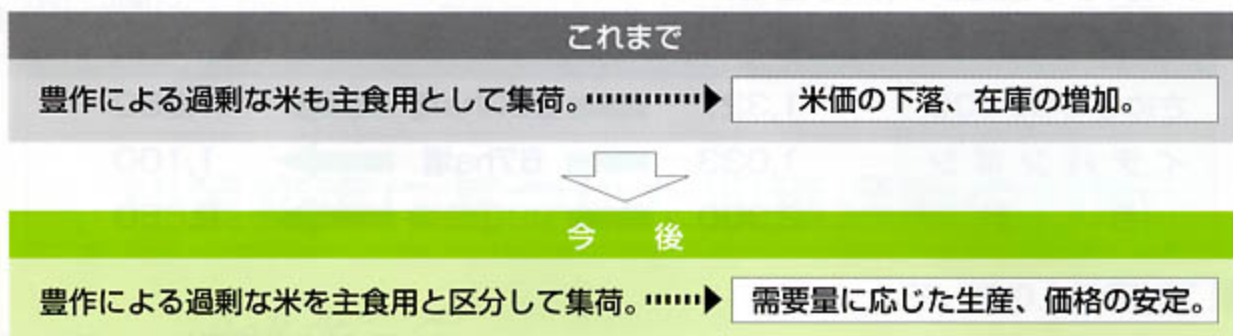
「自分では麦の全作業をすることが困難」という方でも、集落内の麦作農業者や集団に貸し出したり、部分的に作業を委託するなどして、麦を作付けましょう。

集荷円滑化対策について

～農業者が一体となって豊作分の過剰な米を処理しましょう～

16年産から始まった米政策改革では、「農業者・JAが自主的・主体的に需給調整を行う姿」を目指すこととしています。

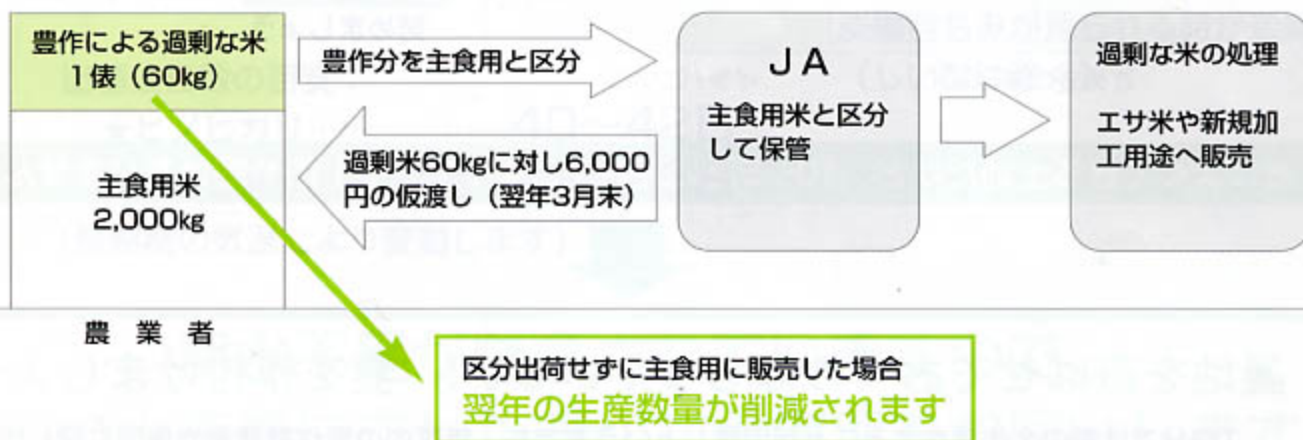
このためには、販売動向を把握し需要量に応じた生産とともに、豊作による過剰な米を適切に処理し、供給過剰による米価下落を防止することが必要です。



★集荷円滑化対策の仕組み

全国、かつ、香川県で豊作（全国の作況指数101以上、かつ、香川県の作況指数101以上）になれば、豊作による過剰な米をJAが主食用米と区分保管します。

例 香川県の作況指数が103、地区の基準単収500kg/10a
農業者の水稲作付面積40a、生産確定数量2,000kgの場合
 $40a \times 500kg/10a \times 作況指数1.03 - 生産確定数量2,000kg = 1 俵 (60kg)$ を区分保管します。



※詳細な内容については、最寄りのJA各支店・営農経済センターまで、お問い合わせ下さい。